

## 平成26年度 部局自己評価報告書（学際科学フロンティア研究所）

**Ⅲ 部局別評価指標**

- 1 東北大学グローバルビジョンにおいて各部局が定めた「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策または部局第2期中期目標・中期計画における特色ある取組の進捗状況と成果**  
**※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容**

本項目の説明に際し、学際科学フロンティア研究所の設立について背景の概略を述べる。まず、平成25年4月1日をもって国際高等研究教育機構の「先端融合シナジー研究所」と「学際科学国際高等研究センター（以下、センター）」が統合して、「学際科学フロンティア研究所（以下、研究所）」が発足した。ただし、この段階では、本研究所は国際高等研究教育機構の下に位置づけられていた。平成26年4月1日からは、学内の独立部局として運営されている。このような変遷の中で、平成25年度は、上述のように2つの組織が統合したことから、研究所の運営体制、教員の採用方法、プロジェクト研究の採択方法等、具体的な推進のあり方を検討し、早期にその具体案を提案するため、ワールドクラスの研究推進プロジェクト・チームの下に学際科学フロンティア研究推進WG（以下、WG）が設置され、平成26年1月7日に伊藤貞嘉（研究・環境安全担当）理事宛、その検討結果を報告した。従って、平成25年度は、センターの取組みを継続実施するとともに約1年間に亘って研究所の取組みについて検討しつつ、実施可能な事項から一部を実施する状況にあった。

以上の状況の下に実施した重点戦略・展開施策の進捗状況と成果を以下に記載する。

**1. 先端的学際研究の推進と学内学際研究発掘**

平成25年度は、センターにおいて採択された特別推進研究1件、学際領域国際共同研究1件、学内公募により学際研究を推進するためのプログラム研究5件、挑戦的萌芽的研究を学内から発掘するための領域創成研究18件（内、センターからの継続課題3件、平成25年度採択15件）が実施された。

国際交流の観点からは、国際会議への出席、共同研究の実施等はのべ40件であった。（この内、II-1(1)で記述した研究所独自の若手研究者の海外研究集会派遣支援分は5件）

**2. 若手研究者育成（尚志プログラム）**

グローバルCOEプログラムにおいて国際公募を行い、平成25年4月1日付けで採用された助教9名、及びWGにおける検討結果に基づき、国際公募を行い、平成25年度内に赴任した准教授・助教11名。この際、准教授1名の公募に対し応募者数45名、助教6名に対し応募者数98名であった。さらに、平成26年4月採用予定者を年度内に国際公募した結果、准教授1名の公募に対し応募者数51名、助教9名に対し応募者数136名であった。厳正な審査の結果、准教授1名、助教9名を採用した。この間、助教2名が本学理学研究科、サイバーサイエンスセンター助教、1名が関西学院大学講師、1名が中国河海大学教授として転出した。現在の新領域創成研究部若手研究者の在籍状況は、准教授2名、助教29名であり、この内女性7名、外国人3名である。

領域創成研究の名称は変更しないで、平成26年度より公募の趣旨を学内若手研究者の学際研究促進の視点に据え、本年7月現在で公募を開始した。

国際高等研究教育院の博士・修士研究教育院生との連携によるセミナー、研究会、コロキウムなど実施活動（養賢プロジェクト）は、10件であった。

**3. 若手研究者の国際舞台進出支援**

平成25年度は、前述の通り、国際会議への出席、共同研究の実施などが40件であったが、その内准教授、助教等の若手研究者によるものが30件であった。また、財政的支援は異なるが、研究大学強化促進事業による支援を受け、長期留学や共同研究の視点から3名を米国及びドイツに派遣

した。

平成 26 年度からは、上記領域創成研究の申請と併せて、学内及び研究所の若手研究者の国際舞台への進出を支援する事業を実施予定である。

#### 4. 異分野融合・学際分野における国際的頭脳循環のネットワークとハブの形成

全学的な視点から連携促進が図られているフランス・リヨンの大学との共同研究や教育プログラムに関係した ELyT Lab のワークショップ（平成 26 年 2 月フランス・ニースにて開催）に佐藤所長及び三木准教授（先端学際基幹研究部）が参加し、研究所としての参加や連携の可能性について情報交換を行なうと共に、これまでの共同研究成果を報告した。